

一年を振り返って

松浦 純子

昨年の春、企業OBペンクラブに入会し一年が経った。記憶が鮮明なうちにこの一年を振り返ってみようと思う。

一言でいえば失敗・勘違い・戸惑いの連続であった。まず、初めての会合でクラブのある方に、「以前はどのようなお仕事をなさっていたのですか」と聞いてしまった。ご自分の仕事に誇りをもって全うされた方ばかりなので、聞けば答えてもらえると思って安易に尋ねたのだ。もちろん企業名や役職を聞いた訳ではなく、このクラブはどんな人たちの集まりなのだろうという単純な興味・関心・疑問から聞いただけだったが、「このクラブでは過去の仕事について他人に聞いたり、自分から言ったりしてはいけない決まりがある」と、ぴしゃりと言われてしまった。会則を見ていなかった私が悪かったのだが、今後は過去の仕事を封印すべし！ と頭に叩き込んだ。後から分かったことだが、このような考えを持っている人はごく少数とのこと。大多数の人はそうではないらしい。しかし、過去の仕事に触れて欲しくない人がいることも確かなので、今後も気を付けていこうと思う。

そもそも私は規格外。なぜなら、企業に勤めている訳ではないし、OBでもない。名称通りに解釈すれば入る資格がないので、現在は厚意で入れてもらっていると知っている。ありがたいことだ。

企業と教育界の考え方の違いに戸惑ったこともあった。例えば、教員間では初対面の人と話す時、「先生」と呼べば通じる。名刺を交換しなくても人と人を結びつける魔法のことばだ。通じた後に「お名前は？」や「先生の教科は？」と聞けばいい。最後まで名前を聞かなかった時もあるが、問題なし。

それに対して、企業に勤めている人は初対面の人を何と呼ぶのだろうか。「〇〇さん」、それとも「部長さん」などの役職か。これに関連するが、私は入会当初、何でも書く会で、新参者が執筆者を呼ぶ時に「さん」付けだけでいいのか、それとももっと別の敬称も付けた方がいいのかと悩んだものだ。現在では「さん」付けて呼ばせてもらっている。

また、この一年、文章のテーマも常に頭の中にある現在の仕事を中心に、これはまずいと思いつつも、何回も書いてしまった。現在の仕事については何の規定もないし、他の人に迷惑をかけていないから書いても大丈夫と自己弁護してきた。しかし、「またか！ 他に書くことはないのか！」と呆れられているだろうという気持ちは拭えない。二年目は、教育界を分かって欲しいという気持ちだけでなく、他のことにももっと目を向けて書いていこうと思う。改めてまたよろしく願います。